

ら は た

TAHARA
History Inquiry
Club

探訪

歴史

クラブ

其の76

地名から歴史を探る 2

2月号の話題、家康の田原城攻めの砦とりでであった加治砦周辺には、現在でも「二ノ丸」「西砦」「北取手」「東取手」「北之堀」「西屋敷」など、明らかにこの砦にかかわる字名が残っています。また、加治砦の対岸にある田原市役所周辺には、「南番場」「北番場」という字名が残っています。家康に対抗した今川氏の砦跡に由来するかもしれません。田原町市街地内には、江戸時代の城下町を示す地名が残っています。成章高校のグラ

ンド西には「石取下」という字名が残っていますが、『田原城の石垣をここから調達した』という記録が江戸時代の歴史書に記されています。地名の由来が歴史的な事実を反映したものです。

田原町市街地外でいうと、八王子町には、かつての旗本本多氏の陣屋跡周辺に「陣屋川」「陣屋橋」という地名が残っています。しかし、陣屋があったことは知らない人も多く、この地名の由来は記憶から失われるにちがいません。

このほか、大草町にあった、戦国時代に田原一帯を治めた一色七郎(1481年没)屋敷跡周辺には「武



「陣屋川」「陣屋橋(八王子町)」

兵」という地名もありますし、「蔵屋敷」や「前田」(屋敷の)も関連した字名でしょう。福江町の旧役場周辺は、大垣新田藩の陣屋があったところで、今も「城坂」というなじみ深い呼び名が残っているほか、「牢屋敷」「仕置場」(柴置場からのなまりでしょうか?)という、何やら物騒な伝承も残されています。

「屋敷」という地名には、かつて城であったり、当時の有力者が住んでいたりした場所が多く認められます。田

原市でいえば、例えば伊川津町の伊川津古城。現在は「御屋敷」という字名となっています。ただ、屋敷の場合でも、その家の「元の家跡」という意味の、「元屋敷」などは、関連がない場合もあります。

田原市で「石垣」や「水堀」といった、私たちが城をイメージするものを見ることができるところは、現在、田原城のみとなっています。戦国時代の城跡に、当時



かつて伊川津古城のあった「御屋敷(伊川津町)」

堀や土塁があったとしても、現在は崩れたり、埋まったりしており、その痕跡はまったくありません。したがって、地域の方々が呼んでいた地名は、城探しの有力な情報となります。城に限らず、これらの地名の由来をひもといていくと、由緒ある土地を発見できるかもしれません。

ここで提案です。これから、地域の歴史をまとめる機会があったら、どんなささいなことでも、今のうちに地図の上に記録しておいてください。きつとすばらしい地域の歴史書ができると思います。(増山)

文化財課 23局3531